

第5章

基本方針

第5章 基本方針

1. 目標

飛鳥宮は、東アジア情勢が緊迫した7世紀代において、古代国家の政治・経済・文化と外交の中心であった。宮殿の遺構は、舒明天皇の飛鳥岡本宮、皇極天皇の飛鳥板蓋宮、斉明天皇・天智天皇の後飛鳥岡本宮、天武天皇・持統天皇の飛鳥浄御原宮に比定され、飛鳥の狭いエリアに宮の位置が固定されていたことがわかった。とりわけ後飛鳥岡本宮と飛鳥浄御原宮の遺構は天皇の公的空間と私的空間に区分され、位置が固定され構造が判明した史上初めての宮殿と意義づけられる。我が国の宮都のあり方の変遷を考える上でその初期段階の姿を知ることができる貴重な歴史遺産である。

宮殿が廃絶した後は、明日香村の中心集落の中にあつて地形を大きく変えること無く今日まで水田を中心とした土地利用がなされ、北側を向けば甘樫丘や香具山、耳成山が望める歴史的景観が保持されている。その地下には廃絶した状況のままの遺構が埋まっており、古代の宮殿の中でも保存状態が良い希有の例となっている。発掘調査や調査研究は推進されているが、今後も新たな知見や発見が期待される。

本計画においては、第1章で設定した目的を達成するため、目標を以下のとおり設定する。

「日本国」の誕生と形成の過程を今に伝える古代宮殿の遺跡を確実に保存し
日本文化の基礎となった宮廷生活を体感できる場として活用することにより
広く国内外に歴史を深く理解する機会を提供する。

具体的には、「保存」と「活用」を両輪として取り組むことを念頭に、地下遺構の確実な保存と現代の農村景観の保全を前提としつつ、表示や復元、情報通信技術など様々な手法を用いながら遺構の可視化、及び飛鳥時代の天皇（大王）家の衣・食・住に関わる文物や日々の活動そのものやその拠り所となった外来・在来の思想・宗教・文化などの再現を進め、宮廷生活を体感できる場として活用する。併せて情報発信に努めることで、広く国内外に飛鳥の歴史を深く理解する機会を提供する。

さらに、これらの取り組みについては、村民を含めた多くの方々に誇りをもって参画してもらい地域全体のホスピタリティの向上を目指すと共に、飛鳥京跡苑池をはじめ、周辺の寺社、陵墓、遺跡などの歴史文化資産や観光資源と連携して周遊性を高め、歴史文化の保存と活用に活かしていく。

この目標を達成するための基本方針を次項で定める。

2. 基本方針

(1) 保存(保存管理)

- 飛鳥宮跡の地下遺構を確実に保存し後世に継承する
- 積極的・包括的な調査研究と情報発信を行う
- 歴史的風土・景観を保全する
- 地区区分を設定し、それぞれの地区に適した保存・管理を行う

- ・飛鳥宮跡の本質的価値を構成する地下遺構を確実に保存する。
- ・積極的・包括的な調査研究と情報発信を行うことで飛鳥宮跡の本質的価値の理解を深める。
- ・飛鳥宮跡とその周辺の歴史的風土・景観の保全を図る。
- ・史跡指定地とその周辺部について遺構の性格や歴史的風土・景観、所有形態を踏まえた地区区分を行い、地区に応じた保存・管理を行う。

(2) 活用

- 飛鳥宮跡の本質的価値を体感し理解を深める場とする
- 飛鳥地域全体の活性化を図る
- 重要な観光資源として地域の魅力向上に貢献する

- ・飛鳥の歴史に親しみ、その成り立ちをより深く知る場とする。
- ・整備状況や新たな知見に応じた進化する活用を推進する。
- ・地域住民や来訪者がともに憩い、楽しみ、愛着を持てる空間とする。
- ・周辺の歴史文化資産等と周遊・情報ネットワークを形成し、地域全体の活性化を図る。
- ・積極的・継続的な情報発信を行うとともにホスピタリティの向上を図り、明日香村の観光拠点とする。

(3) 整備

➤ 満足度の高い歴史体験を可能にするハードとソフトの充実を図る

- ・遺構の保存を前提とした、飛鳥の歴史的風土と調和した施設整備を行う。
- ・ハード・ソフト両面から、多様な手法を用いて遺構の可視化と飛鳥時代の宮廷生活の再現を行う。
- ・地域住民と来訪者が快適に過ごせる空間を創出する。
- ・周辺の歴史文化資産等とのネットワークを構築する。

(4) 運営体制の整備

➤ 飛鳥宮跡の継続的で発展的な活用と地域全体のホスピタリティの向上を目指した多様な主体による保存管理と活用を推進する

- ・多様な主体による活用・整備・管理運営を推進する。
- ・管理運営におけるチェック体制を確保する



図 4-1 目標達成のイメージ図

